

平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700354		
法人名	(株)プロデュース		
事業所名	グループホームきらめき上の原		
所在地	福岡県北九州市八幡西区上の原2丁目17-11		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果確定日	平成27年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るい挨拶 元気な会社」と経営理念を掲げ、私たちは高齢者介護を通じて尊厳を守り、思いやりと感謝を持ち続け生きがいある生活のお手伝いをします。笑顔になる人間関係を築き、人とひと・こころと心をつなぎ地域に貢献します。職場内が明るく元気で愛・感謝溢れた、チームワークの良いホームです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族や地域の方の協力で、玄関入り口や横のウッドデッキは季節の花々が咲き誇り、エレベーター前には今年もお雛様が飾られ、心むく空間となっている。毎朝、入居者との経営理念や各ユニットのスローガンの唱和が継続し、法人内での研修実施や段階に応じた研修の受講で、人材育成に努めている。入居者の笑顔や声かけに、癒されたり元気になったり、帰宅願望のある入居者に「ここにいないといけない」と諭す他の入居者の言葉に、職員は頭が下がるとのエピソードから、理念の人とひと・こころと心をつなぐケアの実践が伺える。自主運営の家族会の会長から、運営に関する率直な意見や、職員の県内外の研修先まで駆け付けていただくなどの応援を受け、また運営推進会議では、徘徊搜索ネットワークづくりや認知症に関する勉強会が予定され、職員と家族、地域が一体となったサービスの推進が期待できるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホームきらめき上の原 太陽**

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念「明るい挨拶 元気な会社」私たちは高齢者介護を通じて尊厳を守り、思いやりと感謝を持ち続け生きがいある生活のお手伝いをします。笑顔になる人間関係を築き、人とひと・ところと心をつなぎ地域に貢献します。	職員は、毎朝経営理念や各ユニット毎のスローガンを入居者と共に唱和し、明るい挨拶で明るい職場づくりに努めている。皆で唱和すること、「今日も頑張ろう」とモチベーションが上っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	肉屋、八百屋、魚屋へ注文をし、ほぼ毎日配達をして頂き、入居者様と食事作りをしている。地域の盆踊り、運動会、敬老会、文化祭などに参加させて貰っている。	地域交流室を利用した音楽療法は好評で、家族の参加があったり、地域の方や入居者の弟さんに講師をお願いしているきらめき短歌カフェや、折り紙教室も継続している。また、きらめきキッズとの交流では、ここで働きたい、社長になりたい等の元気な声もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月「きらめきだより」を発行 ご家族様へ送付。地域の方々にも見て頂き、情報発信しながら支援、理解してもらえる工夫を心がけている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目が昨年の5月、7月、9月、11月、今年の1月、(次回は3月予定)開催 家族の方、地域の方の意見や要望を聴き、改善出来るよう取り組んでいる。(徘徊搜索ネットワークin上の原の構築、認知症勉強会検討中)	小規模と合同の運営推進会議は、毎回7名～8名の家族、民生委員や介護福祉士の資格のある地域の方など、約30名の参加で定期的に行われ、会議録も開示されている。自治会長から、地域と一緒に災害訓練をしてはどうかとの提案もあり、検討予定である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方よりヒヤリ・ハットや事故報告等日々のケアに対する助言指導をしていただいた。	夜間、転倒したはずみで小指を骨折した入居者があり、経過や今後の対応について報告している。日頃から、運営推進会議でもヒヤリハットを報告しているため、適切な情報交換が行われている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夕方19時まで開放している。運営会議などで拘束について話し合い、周知している。利用者様の思いを知り寄り添う介護を、目指している。必要な時は、家族と話し合いを持つこととしている。	「転倒してほしくない」との家族の要望もあり、センサーマットを使用している入居者もある。夜間転倒した入居者は、家族の了承を得て、頭部にセンサーマットを使用している。心地よいプラスの声かけをミーティングで話し合い、自らで言い換えをしたり、時には管理者が「言葉がすぎますよ」と注意している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様には尊厳をもった会話を心がけている。スタッフ間での会話でも尊厳をもった言葉使いに気を付けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人をたてている方が入居されている。 必要に応じて入居の際説明をしている。	後見人の弁護士に來所いただき、入居者の介護計画を説明している。有償の外出支援サービスで自宅に帰宅してきた入居者の笑顔から、後見人にサービス利用回数を増やす提案をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際必ず説明を行い、理解、納得してから契約を行っている。 分からない事があればその都度説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	9月に家族会が発足され、運営推進会議の後で話し合いを持って頂く。意見をまとめて報告して頂き、改善出来る所は改善していくように努めて行く。	自主運営の家族会が、運営推進会議後に開催され、3月の家族会は花見の予定である。系列のグループホームから転居した入居者の家族が会長を引き受け、率直な意見を運営者に申し出ている。県内外で開催されたケアコンテストやこだわりカンファレンスに参加した職員は、「会長が応援に駆け付けていただいて感激した」と話している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員と面談を行い必要であれば社長へ報告し指示を仰ぐようにしている。	研修担当者が徘徊や夜間せん妄の学習会を計画したり、脱水が原因の夜間せん妄を防止するために、職員の提案で夕食時のお茶をほうじ茶にしている。ユニット毎や全体ミーティングでの話し合いの結果を、管理者が運営者に提案や相談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日々職員に対し声掛けし、ユニット会議で話しやすい環境を作り目的意識をもって勤めてもらっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20歳～72歳年齢差も幅広く男女問わず職員がおり、個々の能力を発揮し、お互いが理解してチームワークを大切に取り組んでいる職員同士の良いところに着目し、個人の強みを伸ばしながら勤務できるよう協力し合っている。	理念を実践できる職員を育てるために、法人内での研修実施や、段階に応じた研修の受講を支援している。職業訓練時にホームで実習したのがきっかけとなり入職した職員もいる。法人内での配置転換で活性化が図られたり、運営者は若い職員が諸般の事情で離職しても、帰って来れる職場づくりを目指している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症勉強会・理念と経営勉強会を毎月一回行っている。	入居者の笑顔に癒されたり、入居者から「どうしたのか」との声かけで、元気になると話す職員もある。介護パシリテーション研修に参加した職員は、まず自己受容(肯定)を学んだと話するなど、人権を学ぶ好機となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師による勉強会 職員の能力に合わせ社外研修で学んできた事を報告し共有している。個々の対応の成功例を周知している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	徘徊ネットワーク会員、グループホーム経営者や管理者と情報交換している。グループホーム協議会に入会し、事例発表会や研修に参加し他社との情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族の困っている事、不安や要望を聴き安心して頂ける様に、努めている。 センター方式の活用が信頼関係に結びついている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、家族の困っている事、不安や要望を聴き安心して頂ける様に努めている。 センター方式活用初期段階では、本人、ご家族とのコミュニケーションを多く持ち安心して頂けるように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、本人、家族の困っている事、不安や要望を聴き安心して頂ける様に、努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で入居者様からも沢山の事を学びお互いに支え合っている関係。本人の出来る事を日々気付き協力して頂いている。感謝の言葉を伝え出来た事は喜びを共に感じ自信を持てるように支援している。喜び、悲しみ、怒りを共に分かち合いながら、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告、相談を行い、よりよいケアが出来るよう信頼関係を築いている。毎月家族通信を送っている。ご家族様が来られた時は、ご家族様だけで過ごして頂ける様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後今まで住んでいた自宅に行き洋服や家電などを持ってくことや馴染の場所に同行をしている。	調査日、夫の13回忌の法事に家族と出かける入居者や、訪問した家族と別室で水入らずの時間を過ごす入居者もあった。週末に入居者の部屋に宿泊する家族もあり、一緒に帰りたいと訴える入居者の気持ちを察し、夕方職員が自宅まで迎えに行くことを家族に提案するなど、家族との関係を大切に支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にソファに座られ、そっと手を握りスキンシップをとっている光景をみかける。 廊下を肩を並べて歩いている光景あり。 お互いの居室を行き来し仲良く話されたりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が必要になり入院退去となった方への経過報告など連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し本人の嗜好や生活歴を知り本人が望む生活や思いを理解するように努めている。	家族から、暮らしの情報(私の生活史シート)を記載してもらったり、職員を担当制にして、入居者の意向や思いの把握に努めている。ユニット毎のミーティングで、把握した情報を共有している。	得た情報を印字の色を変えて書き加えるなど、センター方式のさらなる活用を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との話を通じて生活環境、これまでのサービス利用の経過などの把握に努めセンター方式の生活史を活用する。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のその日の心身の状況を観察し把握し自由で快適に過ごせるよう努めている。 毎月のカンファで現状の把握を行い、今後の支援を検討している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に変わりのない方は3ヶ月に1度カンファレンスを行い計画に反映している。 ユニットごとの事前ミーティングでカンファレンスの際細かく意見を出す仕組み作りをしている。	カンファレンスで気づきを話し合い、別のユニットを動き回る入居者の行動の理解に努めている。その入居者の行動を職歴から分析し、受け入れるケアが実践されつつある。	生活歴等から入居者らしい生活は何かを話し合い、実施しているケアのモニタリングを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケアプラン実施評価表を作成しており毎日記録している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のご家族の状況やご本人の状況に合わせてサービスを行っている。 外出を好まれる利用者様には、できるだけ外出の機会を作るよう努力している。 ご本人の希望に添える支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が住宅地のため、散歩の途中に近所の方から声をかけて頂いている。 地域の老人会の催し物に参加させて頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に来ていただき健康チェックできている。 必要に応じて緊急往診や緊急対応の指示、協力を受けている。	月2回の訪問診療を支援し、医師によっては適切に情報交換ができるように、連携ノートを作成している。医療機関に同行する家族もあり、入居者の状況を日頃から家族と共有している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が看護職員と連携をとり健康チェックしている。 変化の有る方は申し送りを徹底し支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ホームでも生活情報を提供し、家族を通して病状確認を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医師と密に情報交換し、状態変化が有る時は、その都度家族の意向を確認し、満足して頂ける終末期を迎えられる様支援している。	病院で亡くなられた入居者もあるが、家族にホームでの看取りの意向を再確認し、1名の看取りを支援している。ターミナルと告知されたことも数回あったが、夕食を完食後に逝去されている。看取りを経験し、家族との関係を見直すきっかけになった職員もいた。亡くなる前に、その方の居室のドアを開けた入居者が死期を理解し、手を合わされる出来事もあった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる事故や急変時は再度職員に伝え対応の手順を再確認している。 AEDを設置後消防士を呼んで救命救急の講義を受けた。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯の火災を想定し避難訓練を行い、消火器の使用方法和利用者様の非難誘導も行っている。 地震・水害に対しては、備蓄できるものは、準備している。	5月、11月に避難訓練を1階の小規模と合同で実施し、業者によるスプリンクラー等の定期点検も行われている。訓練後に、自治会長より歩けない入居者の避難方法について質問があり、救命を最優先することを説明して理解を得るなどの、意見交換もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけをしている。 赤ちゃん言葉や上からの命令形な言葉は絶対に使わないように指導している。 羞恥心に配慮したケアを行っている。	明るい挨拶が日常となり、入居者の心身の状況に応じた声かけが実践されている。帰宅願望のある入居者に、他の入居者が「ここにいないといけない」と諭すなど、同じ思いを抱える入居者同士ならではの会話に、職員は頭が下がると話している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の行動などでシグナルを見落とさないよう努めている。 おやつ時の飲み物や行事の参加や外出も自己決定できるよう声掛けしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて読書を好まれる方、廊下ソファでおしゃべりしたい方など個々その時の状況に合わせて一人ひとりのペースを大事にして、その人らしい暮らしを大切に支援するように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせて行っている。外出時などは一緒に着る物を選び決めている。 理美容室に行きパーマやカラーをされる支援を行っている。2、3ヶ月に1回訪問美容師に来て頂きカットをされる支援をしている。毎朝お化粧をされている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたい物等有る時は、献立に反映している。個々のその時の状況に合わせて、出来ることを共に行っている。 食器洗い、お盆拭き等を一緒に楽しく行っている。	小規模と2つのユニットで食事づくりを分担し、入居者と過ごす時間を確保している。入居者の心身の状況に応じてテーブルを分けて、それぞれのペースで食事ができるように支援している。傾眠傾向の入居者もあり、覚醒を促す声かけや食事介助が行われていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分摂取量をチェックし状態を把握し対応している。 個々に合わせて食事量をきめて、バランス良く摂取される様に支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。 困難なご利用者はスタッフが介助にて行なっている。義歯については洗浄し一日一回除菌を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、トイレで排泄が出来るよう援助している。 歩行困難なご利用者には、声掛け誘導にて介助を行っている。	骨折で退院後のオムツとポータブルトイレ使用から、トイレ誘導で排泄が自立した入居者もいる。夜は紙パンツとパットだが、日中は時間毎の声かけや誘導で、布パンツにパット使用の入居者も多く、経済面にも配慮しながら支援してる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動と毎朝のパナナ入りヨーグルト等工夫し、自然排便が出来るよう援助している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1対1の援助でゆっくり入浴して頂いている。 臨機応変で希望の有る時は対応している。	冬場は週2回の入浴を支援してる。職員が2人体制で入浴を支援する片麻痺の入居者もある。入浴を拒否される入居者もあり、家族にお願いして美容院でカットとパーマを別々の日にすることで、洗髪する機会を増やしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠時間や状態を把握し対応している。病状や年齢、習慣によって日中でもゆっくり休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表や薬手帳で確認できるようにしている。 新しく処方があるときは必ず申し送っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族の協力も頂きながら個々の嗜好を取り入れ支援している。個々の役割を持つことで生き活きた生活が出来るように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩にお連れしたり又近くのスーパーに職員と一緒に買い物に行き、住民の方とのコミュニケーションも心掛けている。 家族やボランティアの協力を得て季節ごとにドライブなどにお連れしている。	今月末は桜の花見の予定で、年間の外出計画で藤まつりや初詣、地域行事の盆踊りや敬老会、文化祭等にも参加したり、数名の家族と同伴でのドライブに出かける等、入居者の状態に合わせた外出支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お預かりはしないが、ご本人とご家族の希望で、お金をもっている方もいる。 買い物の時にお渡しする事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の希望があれば、いつでも電話できる体制はある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング等に季節を感じられるように花や飾りを工夫し取り入れている。窓から庭園、畑が望める。季節感のあったお部屋のレイアウトをしている。	家族や地域の方の協力で、玄関入り口や横のウッドデッキは季節の花々が咲き誇り、エレベーター前には今年もお雛様が飾られ、心和む空間となっている。2階の階段を中心に左右に開所した各ユニットは、中央に組み合わせ自由な机やイスが設置され、入居者の寛ぎの場となっている。加湿器も設置され、空調も管理されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、自由に過ごせる空間がある。気の合った入居者様同士、一緒に座られ話しをされる事もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や壁掛け、写真等を持って来られ、ご本人が心地よく過ごせるよう努めている。	居室入り口には花柄の暖簾と木製の表札が掛けられている。居室には使い慣れた家具や家族写真、入居前に書いた絵や木彫り像を飾る等、過ごしやすい佇まいが工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせその時の状況を把握し過剰な介護はせず支援している。 出来る事の発見やそっと見守る事で出来るように支援している。 下膳や食器洗い、掃除機かけ等		